問二　(ア)　1　(イ)　2　(ウ)　4　(エ)　3

問二　古文

本文の現代語訳は、おおよそ次のとおりです。

〈雨が降り、風がものすごく激しく吹いていた夜、二条の中納言実綱卿の家に侍たちが集まって世間話をしていて、「今からならどこへ行けるのだろうか。東三条の池の辺りへ行けるのか。」などと言っていたところ、ある侍が、「絶対に行ってきますよ。」と言ったので、言い争っているうちに（行くことを）約束してしまった。（ある侍の）同僚たちは、「そこに行ったという証拠に、池の中島にくいを打つがよい。その後、われわれがそこへ行って（そのくいを）確認しよう。」と言うと、「もちろんだ。」と言って、この侍は出かけて行った。

同僚たちは、「この者は、意地っ張りで愚か者だから、本当にやりとげてしまうことがある（そんなことがあってはまずい）。では、先回りして（あの者が）おじけづくような計略をめぐらせよう。」と思って、二、三人で相談して、さいぼう一本と讃岐わらざ一枚を持って、急いで先回りして、その池の中島にある木の上にのぼって待っていたところ、この侍が、予想通り池を渡って中島に来て、くいを打とうとする。そのとき、木の上から讃岐わらざを投げ落としたので、この侍は少し下がって、お経を唱えて座っていた。そこで、次にさいぼうを投げ落としたところ、池に投げ入れられたときの水の音が大きかったので、（ある侍は）驚いてうろたえ、あわてて逃げてしまった。同僚たちは、うまくやり通して、木からおりて、何もなかったようにして、（中納言実綱卿の家に）帰っていた。そこへ、この侍が青ざめて出て来た。「どうした。」と尋ねると、「いきなり唐傘のような物が落ちてきたので、命より大切なものはないと思ったから逃げてきたのだ。」と言った。こうして、（約束が守れなかったので、ある侍は同僚たちに）ごちそうをふるまった。〉

問二　(ア)　1　(イ)　4　(ウ)　2　(エ)　3

問二　古文の読解

本文の現代語訳は、おおよそ次のとおりです。

〈（内供という僧は、）物を食べる時には、弟子の法師に、長さ一尺・幅一寸ほどの平らな板を鼻の下へ差し入れさせ、向かいに座らせて（鼻を）上に持ち上げさせ、物を食べ終わるまでそのままにさせていた。下手に持ち上げると、腹を立てて物も食べなかった。そういうわけで一人の法師だけと決め、物を食べるたびに（鼻を）持ち上げさせていた。

ところが、具合を悪くしてこの法師が出られない時に、朝粥を食べようとして鼻を持ち上げる人がいなくて、「どうしよう。」などと言っていたところ、仕えている子どもが、「私なら上手に持ち上げて差し上げます。その上、その法師には決して劣りません。」と言うのを別の弟子の法師が聞き、「この子どもがこのように申しております。」と伝えると、中堅の子どもで見た目も良くないわけではなかったので、内供のところに連れていくと、この子どもが鼻を持ち上げる木を取り、きちんと向かいに座り、高からず低からずいい具合に（鼻を）持ち上げて粥をすすらせると、内供は、「たいへん上手である。いつもの法師以上である。」と粥をすすっていたが、（その最中、）この子どもがくしゃみをしようとして横を向いてくしゃみをしたところ、手が震えて鼻を持ち上げていた板が揺れ、（内供の）鼻がはずれ、粥の中にぽたりと落ちてしまった。内供の顔にも子どもの顔にも粥が飛び散り、一面にかかってしまった。内供はひどく腹を立て、「おまえは憎たらしい心を持ったやつだ。私でない身分の高い方のお鼻を持ち上げる時にもそんなことをするのか。おのれ、立ちなさい。」と追い立てると、（子どもは）立つままに、「世の中の人に、そんな鼻を持っている人がいらっしゃるのであれば、鼻を持ち上げに参りましょう。愚かなことをおっしゃるお坊さまだなあ。」と言うと、弟子たちは物陰に逃げ隠れて笑った。〉